

はじめに

草原は日本人の原風景であると同時に、地域産業の基盤、水源の涵養、生物多様性の保全、CO₂の固定化など、様々な公益的な価値を私たちに提供しています。このような生態系サービスとそれらを支える生物多様性が維持されてきたのは、火入れや採草、放牧など、人による利用と管理が長年続けられてきた結果です。しかし、これらの管理作業は常に危険と隣り合わせであり、ここ数年間をみても、毎年のように火入れの延焼や人身事故が発生しています。

いうまでもなく、火入れは、草資源を管理し、集落のコミュニティを支え、また、草原の景観や生物を守る上で不可欠で、とても大切な、しかも効果的な作業です。そこで、危険が伴う火入れの作業をこれからも続けていくためには、事故や災害を起こさない仕組みづくりや意識の醸成が求められます。

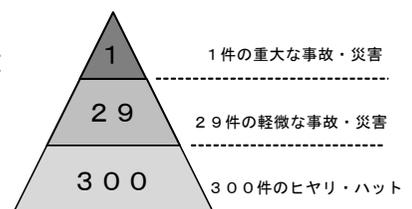
事故・災害防止の鉄則は「事前対策により事故・災害を予防し、危険をゼロにする」ことです。残念ながら現実には、事故・災害の発生には至らないまでも、危険が存在しているケースがたくさんあります。ところが、誰も危ないことを経験してヒヤリ、ハットしたことがあるにもかかわらず、大事に至らなければ「ああよかった」とすぐに忘れてしまうのです。

重大事故が発生した際、その前に多くのヒヤリ・ハットが潜んでいます（*ハインリッヒの法則）。「いつ、どんな状況で、どんなヒヤリ・ハットを感じたか」という情報を全員でシェアすることは、極めて効果的な「災害防止対策」です。これらは、まだ目に見えていない「潜在的な危険」を知らしめ、体験していなくても、想像力を働かせばこの先どんな危険が存在するかが察知できます。

草原の火入れの作業においても、あえて各個人が経験したヒヤリ・ハット情報を公開し、共有することによって、重大な事故・災害の発生を未然に防止することが重要です。全国草原再生ネットワークはこれまで様々な機会を通じて、火入れの鉄則は「人命第一」であることを呼びかけてきました。本書を通じて、そのことを皆さんと再確認し、意識を共有して火入れに伴うリスクを回避していくことを、改めて訴えたいと思います。

このヒヤリ・ハット集が、重要な心得として火入れ作業やイベントの安全確保に役立つとともに、安全を積み重ねることで草原保全への社会的信頼が得られるよう心から願っています。

*ハインリッヒの法則は、「重大事故の陰に 29 倍の軽度事故と、300 倍のニアミスが存在する」ということを示したもので、災害防止の基礎となっている。



(ハインリッヒの法則)

目次

□草刈り作業時のヒヤリ・ハット

事例 1	狭く接近した場所で刈払い機点検	1
事例 2	刈払い機の高速回転始動、刃が飛ぶ	2
事例 3	原野に放置された鉄条網に刈払い機の刃が当たる	3
事例 4	堆積した草で前が見えず、コンクリート枡に足をとられる	4
事例 5	傾斜地で刈払い機作動中に倒れる	5
事例 6	草に隠れて人が見えず、刈払い機と接触しそうに	6
事例 7	刈払い作業中の後方からの声掛け	7
事例 8	刈払い機を振る背後から通り抜ける	8
事例 9	止まり切っていない刈払い機の刃が、隣の人を	9
事例 10	刈払い機のエンジンを切らずに移動、転倒接触	10
事例 11	刈払い機を担いで移動、足を滑らせる	11
事例 12	隊列を組んだ草刈り作業で上下接近	12
事例 13	傾斜地で追い越し、上から機械作動中に滑り落ちる	13
事例 14	安全間隔が保てず、刈払いメンバーが集中	14
事例 15	鎌を持ち草を運搬、足下見えず滑る	15

□野焼き作業時のヒヤリ・ハット

事例 16	難燃性作業服を着用せず消火作業、服が焦げる	16
事例 17	風向きが変わり、山側に燃え広がる	17
事例 18	火のまわり方を予測し、難を逃れる	18
事例 19	少人数時に火勢が強くなり、他からの応援で助かる	19
事例 20	煙にまかれ、取り残されたところに火が迫る	20
事例 21	斜面上側から消火、急に火勢が強くなる	21
事例 22	点火幅広く飛び火、一気に炎が迫る	22
事例 23	迎え火が後ろに飛び火、前後から火に挟まれる	23
事例 24	吹き付け法面からの突然の発火	24
事例 25	急斜面を登ってくる多量の煙	25

事例 2 6	斜面上から覗き込み、炎と熱風にあたる	2 6
事例 2 7	くぼ地で火入れ、逃げ場がない	2 7
事例 2 8	くぼ地で着火、上からの火に囲まれそうになる	2 8
事例 2 9	背に急斜面、狭い防火帯での消火作業	2 9
事例 3 0	火つけをする前に隣から火が迫る	3 0
事例 3 1	点火作業が速すぎて消火作業が追い付かず	3 1
事例 3 2	防火帯焼きの最中に本火が上がる	3 2
事例 3 3	昼食中の防火帯に火が迫る	3 3
事例 3 4	単独で行動、野焼きを中断させる	3 4
事例 3 5	火が迫るも、どこで消火すべきか迷う	3 5
事例 3 6	迎え火の指示が遅れ退避	3 6
事例 3 7	ポイ捨てしたガス缶が、火に熱せられ暴発	3 7
事例 3 8	火入れ箇所の中で着火し、火にまかれそうになる	3 8
事例 3 9	まいたガソリンに引火、ズボンが燃える	3 9
事例 4 0	煙で車道の視界がゼロに、交通事故の危険	4 0
事例 4 1	煙にまかれ車道に飛び出し、車を止める	4 1
事例 4 2	野焼きに見とれ、段差で急ブレーキ	4 2
事例 4 3	道路付近で車と炎に挟まれ、逃げ場をなくす	4 3
事例 4 4	カメラに夢中、炎に包まれそうに	4 4
事例 4 5	防火帯に残された刈り草であわや転倒	4 5
事例 4 6	積み上げられた刈り草にくすぶる炎	4 6
事例 4 7	着火用のバーナーで焦げるズボン	4 7
事例 4 8	快晴時に見えにくい炎が足下に近づく	4 8
事例 4 9	尾根での突風でバランスをくずす	4 9
草刈り・野焼きの用語集		5 0
ヒヤリ・ハット追加募集様式		5 2